連載

モンドラゴンの光と影
＜第１回＞

石塚 秀雄
Ishizuka hideo
●非営利・協同総合研究所いのちとくらし 主任研究員

1. 初めにバスクありき

スペイン北部のバスク地方に拠点を置くモンドラゴン協同組合グループは世界的にユニークな協同組合運動として知られています。労働者協同組合をベースにした工業協同組合、生協、農協、協同組合銀行、共済組合、大学、技術研究機関、さらに海外に工場をもち、現在約９万人の人々が働いている協同組合運動体として自らを社会的経済企業、略称としてMCC（モンドラゴン協同組合複合体）、CM（モンドラゴン協同組合企業）を用いています。

今回の連載のテーマは「モンドラゴンの光と影」としました。一般に光と影というと良い側面と悪い側面の両論併記となりがちですが、ここでは光と影を正邪対立するものとして見るのではなく、影は困難な課題と捉えたいと思います。なにもしない人は失敗しないと言われるように何かをすればいろいろと問題はおきます。協同組合運動も現実と理想の中で試行錯誤の連続として存在するものであり光を求めつつも光と影はその両方で物事の存在を示すものだと思うのです。「モンドラゴンの光と影」は、この独特な協同組合運動の道のりの姿を、わたしたち一人ひとりの人生と同じように試行錯誤で生きてきたものとして、これから４回にわたり連載したいと思います。

2. モンドラゴンの概要

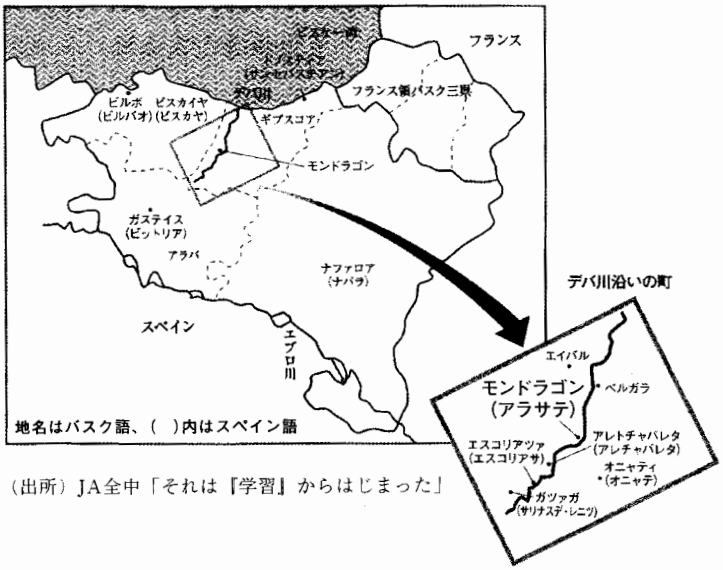
モンドラゴンを語るにあたってモンドラゴンとはなにか、まずその概要を知る必要があります。そこで2011年に筆者も加わりJA全中が発行した『それは「学習」からはじまった－入門モンドラゴン協同組合』の中の一部を引用することでモンドラゴンを紹介したいと思います。

(1) モンドラゴンとは町の名前

モンドラゴンとは町の名前です。スペイン北部のバスク地方にあり、バスク語ではアラサテといいます。町の人口は２万５千人です。バスク地方はスペインとフランスにもまたがる地域に存在して独自の言語バスク語をもつ民族として知られています（スペイン側人口250万人、フランス側人口30万人）。

スペインは多民族国家で17の自治州連合国家であり、公用語はスペイン語（カスチリア語）の他にバスク語、カタルーニア語、ガリシア語があります。バスク自治州には首都ビットリアを含むアラバ県、ギプスコア県、ビスカヤ県の３県があります。文化的にはバスク牛追い祭りで有名なパンプローナがあるナバラ州もバスク地方に含まれます。スペインでは独自言語をもつ地方でとりわけ協同組合運動が盛んです。

バスク国とモンドラゴン周辺地域



（出所）JA全中「それは『学習』からはじまった」

バスク地方は15世紀以降、中央王権から「地方特権」を認められた地域でゲルニカにその連合自治議会が置かれてきたという伝統があります。農地の狭さ山間地の多さから協同農業形式が行われたこと、また漁業においても捕鯨などにおける協同労働の伝統があることから協同組合のルーツのひとつと言われています。

バスク地方は山がちな地域のためにスペインのその他地域にくらべて大規模農業などは発達せず製造業が突出しているのが特徴です。バスク地方は昔から鉄鉱石がとれたために工業が盛んで、19世紀にはイギリスの石炭と組み合わされた製鉄業、造船業などでスペイン重工業の中心地となったのです。

(2) 世界に類を見ない協同組合複合体

バスク経済をみると第一次産業（農業、漁業）0.7%、第二次産業（工業、建設業）32.5%、第三次産業（サービス業）66.8%となっています。一方、スペイン全体では、それぞれ2.7%、25.7%、71.6%となっています（ともに2010年度）。

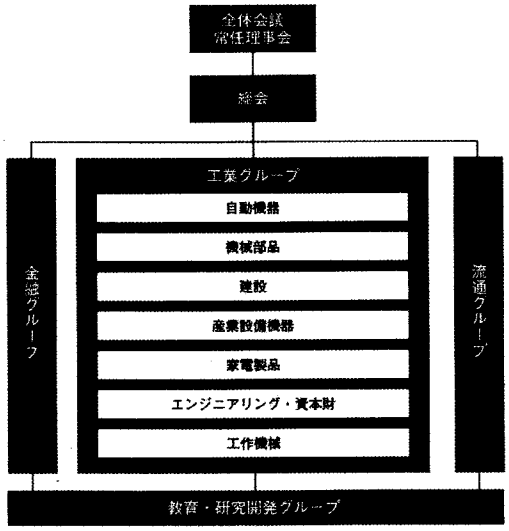
このような中でモンドラゴン協同組合複合体は世界に類を見ない協同組合としてユニークだといわれています。組織規模が約９万人と大きいこと、協同組合としての業種が大きく４つの分野（工業、流通･サービス、金融、教育）にまたがっていること、グローバライゼーションに対応して海外進出していることなどがあげられます。

しかし、モンドラゴン協同組合複合体（以下、モンドラゴングループ）はスペインやバスクの協同組合運動の伝統を引き継いでおりバスク州には現在、協同組合は約1,200存在します。種類別には労働者協同組合数が約60%、農業協同組合３%、住宅協同組合31%、消費協同組合６%、その他に僅かながら教育協同組合などがあり、産業分野としてはサービス分野57%、工業分野29%などとなっています（2008年度）。またスペインでは憲法に協同組合育成が明記されており、州政府等の法制においても協同組合の役割が認知されています。バスクの協同組合の過半数はバスク協同組合連合会に加盟しており、モンドラゴン関係者が会長に就任することもあります。

(3) グループ設立は1956年

モンドラゴングループの誕生は1942年、創設者のアリスメンディアリエタ神父による教育と文化活動の実践とともに始まりました。その後、1956年に最初の工業協同組合が設立され地域の工業協同組合、教育協同組合、消費協同組合、農業協同組合などとともに輸出に力を入れ多国籍企業の側面をもつ協同組合運動体となりました。

モンドラゴングループの組織



（出所）前頁に同じ

3. スペインにおける協同組合の歴史

モンドラゴングループを理解するためのキーワードの一つは地域社会です。たとえばバスク州の地方自治体は500以上あり、これは日本全国の自治体数約1,700

に比べても大変多いことがわかります。ちなみに一番小さい自治体の住民数はわずか50人程度です。またバスク州ではスペインの中で特別な租税制度が認められています。

バスクはスペイン内戦（1936年～1939年）で負け組となったもののフランコ独裁時代（1939年～1975年）にはバスク亡命政府はスペインの正統的政府を宣言していました。そうした経緯もあり、その後スペインが民主化した1978年に新憲法ができ自治州制度が作られて以降、バスク州だけはスペイン政府との経済協定により独自の徴税権利をもつことになりました。簡単に言えば、バスク州が税金を集め、スペイン政府の仕事（外交、軍事その他など）に必要な分担金だけを政府に支払うというものです。このような特権をバスクが持つのは17世紀以来の自治の伝統があったからです。

ここでスペイン全体の歴史に少しふれます。イサベル２世の父のフェルナンド７世が男子継承制度を定めたサリカ法典を破って、一人娘のイサベラを無理に女王として跡継ぎにしました。1833年に父王が死にイサベルは３歳で王位につきました。そこへフェルナンド７世の弟カルロスが自分こそが正統な王位継承者であるのだと主張したために、1834年からカルリスタ戦争という内戦が始まりました。第三次カルリスタ戦争が終わったのは1876年です。これは単に王位継承戦争ではなくて勃興する資本主義勢力と伝統主義社会との戦いでもありました。

当時スペインには二つの政府が存在していたのです。後にK.マルクスは、このカルリスタ戦争の性格について地方自治を求める市民運動の側面があったと評価しているように、国民国家統一のナショナリズム（国民主義）と地域主権の保持を主張するリージョナリズム（地域主義）の対立という図式があったのです。バスク地方はこの19世紀のカルリスタ戦争の主要舞台でした。もちろんモンドラゴンも戦場となりました。

カルリスタ戦争の結果、1876年憲法ではカタルーニア地方とバスク地方に認められていた自立的「地方特権」が廃止されました。このときの首相だったカノバスという人は後にモンドラゴンに保養にきていたときにイタリア人に暗殺されました。同時期にバスク民族主義運動が登場し1895年にバスク民族党（PNV）が設立されました。

スペインにおいて最初の協同組合に関連する法律が制定されたのは1868年です。この明治維新と同じ年にスペインでは名誉革命が起きています。時の女王イサベル２世がフランスに亡命して、一時的に自由主義的な政府が誕生したからです。簡単に言えば自由主義的、進歩主義的な勢力すなわち資本主義推進勢力が伝

統主義的な王政主義派に勝ったのです。名誉革命と呼ばれるのは王様の首を切らず流血を避けたからです。こうした政治の流れは遡って1813年のスペイン最初の憲法（カディス憲法）の誕生から始まったといってもよいでしょう。この憲法によりスペインの近代化が始まりました。近代化は個人の自由と勃興する働く人々の団体の自由とがせめぎ合う時代でもありました。アソシエーション（人々が社会的経済的団体をつくること）の自由が次第に勝ち取られるようになりました。この憲法が協同組合などの設立自由の始まりといってよいでしょう。

また農業問題に関して言えばカディス憲法以来、近代化のための土地制度改革が波状的にすすめられました。資本主義化、自由化の動きは1836年のメンディサバルの土地私有化政策および1855年のマドス土地自由化改革により、政府の土地と教会の広大な土地が売却されます。それはスペインの土地の４割ほどになりました。土地の多くは少数の資本家たちに買い占められ農民が購入できる土地は小規模のものでした。こうした中で農業協同組合や農民団体がつくられていきました。農業協同組合は農村で農村金庫などを設立するなど、独自のセクターを形成し現在に至っています。

その後1931年の第２共和制の憲法ではカタルーニアの自治権が認められ、バスクも自治的特権の復活を目指すこととなりました。こうした独立的自治運動がスペイン内戦でバスクが反フランコ側に立つ理由になったのです。バスクやカタルーニア地方はとりわけ独立志向が強い地域として知られています。これらの地域はとりわけ協同組合運動も盛んで独自の文化的伝統をもっています。つまり政治、経済、文化の全ての面にわたる地域社会に根付いた主体的な運動として協同組合運動を理解する必要があるでしょう。いわば自治と地域社会のあり方が協同組合運動を育てたと言っても過言ではないのです。

４. スペインの協同組合の形成

スペインの協同組合運動の始まりは1838年にバルセロナで設立された植字工組合が最初の協同組合と言われています。1850年代以降、木綿紡績工協同組合や鉄道敷設労働者協同組合などが作られました。また農業協同組合もワイン製造や灌漑などのためにたくさん作られました。

またイギリスからスペインに1854年に戻ったF. ガリドがロバート・オウエンの思想を紹介し、バレンシアで「プロレタリア協同組合」という労働者協同組合を設立しました。バレンシアではいくつもの労働者協同組合が作られています。スペインの協同組合およびバスクの協同

組合運動は1880年代より活発化し電力供給協同組合、水道供給協同組合、安価住宅協同組合なども組織されました。

一方、スペインの協同組合に関わる法律の体系は日本とは異なります。スペインでは協同組合は社会的経済セクターという大区分の中の一つとして位置づけられています。その他には共済組合やアソシエーション、スペイン独特の労働株式会社（SAL）も入ります。

労働株主会社とは労働者協同組合に似ているのですが、株式会社、有限会社の形態をとり労働者が株式の51％以上を所有する民主的企業です。また農協と似た農業開発事業組織（SAT）も社会的経済セクターの一員に含まれます。したがって、スペインの協同組合セクターは社会的経済法（2011年）や共済組合法、アソシエーション法などとも関係することになります。ちなみにアソシエーション法は1887年に制定されています。

スペインの近代的な協同組合法は1931年に制定されました。この時期のスペインは共和制の政治的紛争の時期で、より共和主義的な協同組合法という性格を持っていました。したがって共和主義的な政府は国家による協同組合推進の政策をもっていました。労働者や農民が協同組合を通じて経済活動することを推進するものでした。

現在のスペインの協同組合法は1999年の改定ですが、細目については各州がそれぞれに協同組合法を制定しています。また共済組合法やアソシエーション法なども重要です。ちなみにバスク協同組合法は1982年に制定され2000年に改正法ができています。

5. 労働者協同組合としてのモンドラゴングループ

ヨーロッパでは1830年代から労働者協同組合が設立されました。日本とは約150年くらいのタイムラグがあります。この差はひとことでいえばスペインと日本との近代化の方法の違いといえるでしょう。すなわち、ヨーロッパでは労働する者という概念は広くとらえられました。古くは同業組合や職人の労働などの「自己雇用」や「協同労働」など、そして近代における主要な賃労働、家族労働（自営業）、農漁業の労働などに従事する人も「労働する人」すなわち働く人でした。また労働運動も日本より強力な伝統をもっていました。

一方、日本では労働者とは賃労働者として限定的に狭く捉えられました。また、日本では労働者協同組合運動の歴史が短いために、労働者協同組合としてのモンドラゴンをそのまま真似るということはとても難しいことです。また、モンドラゴングループを理解するうえでキーワードとも言える協同組合と地域社会の深い

関係もあります。1995年にICA（国際協同組合同盟）の100周年大会が協同組合のふるさとであるイギリスのマンチェスターで行われたときに、ICA協同組合原則に「協同組合は社会的関心を持つこと」が新たに付け加わりました。これはモンドラゴングループでは当初から先駆的に掲げてきた原則のひとつであり、少なからず影響を与えたものと思われます。

6. バスク協同組合運動の思想的背景

19世紀後半のスペインではヨーロッパ各国と同じような問題を抱えていました。イデオロギー的には資本主義、社会主義、共産主義、アナーキズム、自由主義がありましたが、バスクではバスク民族主義が登場しました。このバスク民族主義はさきほどの19世紀のスペイン国家統一の反動として登場したものです。このバスク民族主義を支えたのはカトリックの社会正義の思想でした。

1891年、ローマ法王レオ13世は教会の公文書の一つである回勅の中で当時優勢だったイデオロギーである資本主義的自由主義と社会主義的全体主義のいずれにも反対して、第３の道としての社会正義の実現を掲げ連帯による経済事業体として協同組合を重視しました。その40年後の1931年にローマ法王ピオ11世は回勅で改めてそのことを強調しました。バスクではとりわけこの影響が強く、労働運動を支援する労働司祭という人たちを多く輩出しました。モンドラゴングループの創設者といわれるアリスメンディアリエタ神父もその影響を受けた一人です。

バスク地方ではスペインの重工業の中心地だったので工場労働者も多く、社会運動や労働運動はカトリック系、社会主義系、アナーキスト系が、ナショナリズムとインターナショナリズムなどの多種多様な組み合わせがみられました。またバスク地方では第２次大戦後、バスク独立を主張するエタ（ETA,「バスク祖国と自由」）という政治集団が1960年代から活動を活発化させました。

1936年から1939年までのスペイン内戦終了後も当時のフランコ政府は反対派（共和派）を抑圧し続けたことから亡命政府を作ったバスク地方は、とりわけ抑圧され続けました。モンドラゴンはそうした反体制のひとつの拠点でもありました。スペインが民主化された1980年代以降、モンドラゴンの首長は長い間、独立派が占めていました。

石塚 秀雄（いしずか・ひでお）
・非営利・協同総合研究所いのちとくらし・主任研究員
・社会政策論、ヨーロッパ社会的経済研究、モンドラゴン協同組合研究
・最近の著書に『地域医療再生の力』（共著、新日本出版社）、翻訳に『フランスの社会的経済』（日本経済評論社）